

▶ 千歳町で武道館建設

武道館機能をもつ多目的施設は、富山駅東側の富山ゴールデンボール横に建設されることになりました。去年から建設場所や施設の内容について大きな議論がありましたが、第一に武道の振興・競技力向上に寄与する施設ですが、多目的にも利用できる施設となります。今年度設計し北陸新幹線の敦賀開業までに完成する予定です。

施設規模等

諸室名	延床面積	施設機能等
主道場 (スポーツホール)	6,000㎡程度	競技面(2,000㎡=50m×40m) (柔道6面、剣道6面、バスケットボール2面、バレーボール3面) 観客席4,000~5,000席程度(仮設席を含む)
武道場	2,000㎡程度	競技面(柔道場3面及び剣道場3面)
健康増進機能	1,000㎡程度	トレーニング室、ジョギングコース
防災・管理・サービス機能	5,000㎡程度	避難所・防災備蓄倉庫、エントランス・ホワイエ 会議室・医務室・トイレ・機械室・搬入ヤード等
合計	14,000㎡程度	概算事業費85~95億円

▶ 旧職員住宅を創業・UIJターンの拠点に



富山市蓮町の旧県職員住宅を、「2017建築甲子園」で優勝した富山工業高校のリノプランをもとに、創業支援施設1棟、UIJターン向け住宅2棟に改修し、職住一体となった創業・UIJターンの拠点を整備します。今年度から工事にかかり、令和4年春にオープンします。近くには馬場公園や富岩運河があり、また富山港線(ライトレール)の蓮町駅にも近くにあり、この環境を活かした施設になればと思います。

▶ あいの風鉄道の新駅工事着工

あいの風とやま鉄道の富山ー東富山間に設置される新駅の工事が始まりました。2021年の10月の開業を目指します。新駅は富山駅から約4キロ、東富山駅から約2.6キロの地点の下富居地内です。あいの風とやま鉄道の線路とJR貨物の作業用線路を挟むように東側と西側に駅舎を建設し、跨線橋で繋がれます。駅舎の整備に合わせ、今後は新駅東側の県有地の開発計画を進めることが、大きな課題となります。



現在の主な役職

- 自由民主党富山県連幹事長
- 政策討論委員会委員長
- 人口減少問題特別委員長
- 県議会医療問題調査会会長
- 県議会薬業問題調査会会長
- 県議会スポーツ議員連盟会長
- 富山県環境保健衛生連合会会長
- 県土美化推進県民会議副会長
- なのはな農業協同組合会長理事
- 広田用土地改良区理事長
- 富山県ソフトボール協会副会長
- 富山県還暦軟式野球連盟会長

県政に対するご意見をお寄せ下さい。
E-mail: tmw_50@tam.ne.jp

事務所/〒930-0801 富山市中島3-7-20 佐竹ビル1F
TEL076-441-4141 FAX076-445-1882



つとむ通信

2020年
春号
第65号

発行人/富山県議会自民党議員会 五十嵐 務

次の時代を担う人づくりを

富山県議会議員 五十嵐 務



新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大によって、小中高校などが臨時休校するなど県民生活に大きな影響が出ました。一日も早い終息にできる限り力を尽くしたいと思います。

北陸新幹線が開業してから満5年が経過しました。開業前と比べると、観光客の増加、企業立地の進展、Uターン率の向上等、若者を中心とする富山県への移住者の増加など明るい傾向がみられるものの、他方で社会動態については、外国人の転入数の鈍化や若者層の東京圏への転出数の増加により、4年ぶりに転出超過になるなど多くの課題もあります。今後は、北陸新幹線の敦賀延伸やIOT、AI、5GなどのICTの進展などを見据え、「令和」新時代にふさわしい活力と魅力あふれる富山県づくりに積極的に取り組んでいかなければなりません。

また富山市では3月21日、1908年富山駅開業以来「100年の夢」であった路面電車の南北接続が完成しました。明治時代の神通川直線化(馳越線)工事、昭和初期の富岩運河建設を掘った土砂で神通川の廃川地を埋め立て、県庁や市役所一帯の市街地を誕生させた区画整理事業に続く大事業といえます。今後富山地方鉄道の高架化や都市計画道路牛島蛭川線や堀川線の拡幅・アンダーパスの平面化、富山駅北口駅前広場の整備などが急がれますが、いよいよ富山の街づくりの「次の段階」に入ったといえます。

富山県が、地方創生のフロントランナーとして「選んでもらえる県」にさらに発展するためには、県民の安全・安心の確保に万全を期するとともに、次の時代を担う人づくりが最も重要です。石井知事は2月議会の提案理由の説明の中で「地域の振興は、そこに生きる人間の振興だと考えている。すなわち、令和新時代にふさわしい元気とやまの創造のためには社会資本の整備や産業の活性化、観光振興などとあわせて、何よりも次に時代を担う人づくりが重要であり、知事としての私の使命である」と述べました。

今後とも富山県や日本を担う子どもたちや青少年の健全育成に努めるとともに、若い世代の未来に向けた意欲あるチャレンジを応援するのは、わたくしたちの役目であり、実現するよう積極的に活動してまいります。



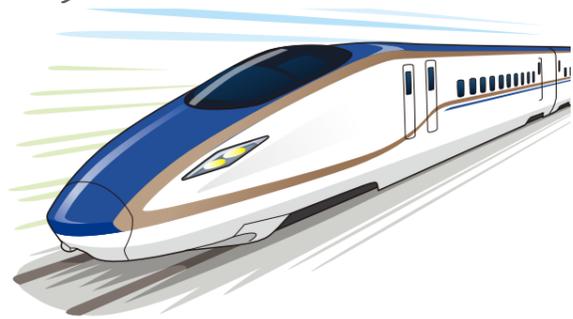
(石井知事)

▶ 2020年度一般会計予算 5,712億円

2月議会で成立した2020年度の一般会計当初予算は、5,712億1,363万円で、19年度比2.9%増の積極型の予算です。アップは3年連続で、伸び率は10年間で最大となり、石井知事が編成した2005年度以降では最高額となりました。3年後に迫る北陸新幹線の敦賀開業を見据えたまちづくり、子育て支援、教育環境の充実に向けた事業を盛り込んでいます。今回、積極予算ながら借金や貯金に頼らずに済んだのは、全国知事会の地方税財政常任委員長を務める石井知事が中心となり、地方法人課税の偏在是正を国に強く働きかけ、毎年4,200億円を東京都から地方に回すことが実現したからです。

人口減や少子化が進んでいたり、人口密度が低かったりする地方自治体に手厚く配分され、富山県分は40億円程度、市東孫文が20億円程度見込まれています。用途が限られる補助金とは違い、自由に使える財源であることが強みです。このため県では重度精神障がい者の医療費無償化といった恒久措置にも踏み切ることができたといえます。

▶ 魅力ある街づくり支援



2023年春に予定される北陸新幹線敦賀延伸を見据え、県は魅力ある街づくりの支援に乗り出します。誘客などで都市間競争の激化が予想される中、観光振興や交流人口の拡大につながる取り組みが欠かせません。開業効果を最大限に発揮させ、県の発展に結び付けていかなければいけません。

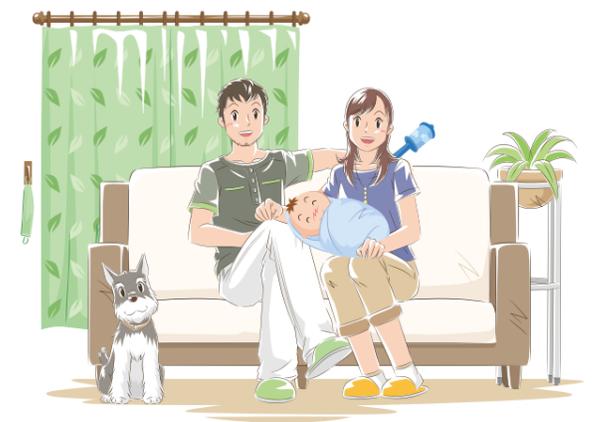
▶ 立山黒部国際ブランド化へ

立山黒部エリアの魅力向上へ、富山県は10月をめどに称名平から飛龍橋までの歩行者専用道にバリアフリー車両を走らせます。坂が続く900メートルを楽に移動できるようにして、高齢者の皆さんにも観光名所の称名滝を訪れやすくします。車両は電動で10人乗りを想定、車いすでも乗れるようにします。こうした車両は、「グリーンスローモビリティ」と呼ばれ、環境にも優しく、高齢者の移動や観光地の周遊のため国が普及を進めています。また、立山黒部アルペンルートの立山駅—美女平駅を結ぶロープウェー計画では、事業主体となる立山黒部貫光が行う地形や地質に関する調査を支援します。



▶ 子育て支援

新年度予算には、多様な子育て支援策を盛り込んでいます。子どもを産み育てやすい環境を整え、人口減を少しでも食い止めるためです。保護者が仕事を休めない時などに病気の子どもを預かる病時・病後児保育施設の空き状況が簡単にわかるシステムを構築します。県のホームページに施設ごとの利用条件や空き状況を掲載。利用者はパソコンやスマートフォンで空きのある施設を確認し、電話などで利用予約をすることができるようになります。また、おむつ交換できるベビーシートの男性トイレへの設置を推進します。男性に見てもらったりすることで、育児参加意識を醸成しようというものです。



▶ 教員の超過勤務削減へ



県教育委員会では、教員の働き方改革に力を入れることにしており、超過勤務削減に向けた取り組みを保護者や地域、企業に周知するため啓発用のパンフレットをつくり配布することとしています。また、留守番電話を県立学校全校に導入し、基本勤務時間の午前8時半から午後5時15分を除いた時間帯の電話対応の負担を減らします。小中学校で補助業務を行うスクール・サポート・スタッフを10人増やし46人に、部活動指導員は県立学校で6人増の26人、中学校への配置支援は19人増の91人とし、負担軽減と競技力向上につなげます。

▶ 全生徒にタブレット端末

国が去年末に、小中学校の全ての児童生徒に1人1台体制を整える構想を打ち出しましたが、これを踏まえ富山県では県立高校の教員と職業科の生徒にタブレット端末を1人1台導入することになりました。令和2年度から配布し、令和5年度末までに全員にいきわたらせる計画です。高校の教員と生徒に1台ずつ導入するのは佐賀県に次ぎ全国2番目です。資料や映像を教室内で簡単に示したり、端末の画像を大きく映し出すことで黒板代わりにすることができ、授業内容の向上だけでなく、教員の負担軽減にもつながることが期待されます。

